



第 21 号

1996年 9 月

岡山県古代吉備文化財センター

▲ 西江遺跡（哲西町）出土特殊器台文様

最近の発掘調査から



古墳時代後期の溝出土須恵器

雇用促進住宅岡山宿舎建設に伴う

原尾島遺跡の発掘調査

岡山平野の東部地域、今日旭東平野と呼ばれる沖積地は、近年の百間川河川改修に伴う発掘調査を中心として縄文時代以降、頻繁な開発と発展を遂げながら現在に至っていることが、数多くの遺跡の調査からうかがい知ることができるようになりました。

原尾島遺跡は、百間川原尾島遺跡の北約

500mの地点、岡山市藤原光町3丁目に所在します。雇用促進住宅の建替工事に先立って平成7年に遺跡の確認調査を実施したところ、古墳時代の集落の存在が明らかとなり、平成8年4月から8月まで発掘調査を実施しました。調査面積は、1772㎡と決して広範に及ぶものではありませんでしたが、調査の結果、多くの知見を

得ることができました。

検出された遺構は、時期的に大きく弥生時代前期、弥生時代後期、古墳時代初頭、古墳時代中期、古墳時代後期、奈良時代、中・近世に分けることができます。以下、中・近世を除いてこれらを簡単に説明してみます。

弥生時代前期は、地表下1.8mの海拔3.0mで水田が1面、調査区のはほぼ全面に広がっている状況で検出されました。水田1枚の規格は、およそ東西4～5m、南北3m前後と長方形を呈するもので幅20cm、高さ約3cm程の畦によって整然と区画されていました。部分的に畦の切れた水口の存在も確認されました。ただし、水田が前期のどの段階に位置づけられるかについては、田面および水田層中から土器の出土が見られなかったので分かりませんでした。

弥生時代後期は、ほぼ終末期段階において百間川原尾鳥遺跡などで検出されている水田とまったく同質の砂で埋没している水田が調査区の東端部で検出されました。残念ながら水田は調査区の東側での検出とあって、また畦も検出されなかったことで平面的な全体像は分かりませんでした。ただし、田面からは不揃いながら稲株の痕跡が明瞭に確認されました。また、そのほかにはこの水田に接して、この水田を含めさらに南側に広がる水田に水を供給する用水路が4～5条集中して、しかもいずれもが砂で埋没した状況で検出されました。

古墳時代初頭は、時期的に弥生時代の終末期段階の水田および溝との区別ができな部分もあり明確にできませんでしたが、溝に堆積した砂の中からは土師器の壺、甕、高杯などがほぼ完全な状態で出土しており、明らかにこの時期と断定できる溝もありました。

古墳時代中期から後期にかけては、それまでこの地区は水田および用水路としての比較的低位地形をいかした土地利用がなされていましたが、古墳時代初頭以降の度重なる洪水によって厚く堆積した砂が次に人の定住を可能とする微高地を形成したようで、ここに集落の存在が確認されました。検出された主な遺構としては、竪穴住居、土壇、溝、火処、さらに白玉製作跡

などがあります。いずれも調査区が狭いこともあって集落の全体像を明らかにすることはできませんでしたが、集落の性格を考えるうえにおいて重要な遺物の発見もありました。その中の1つに滑石製の白玉製作を物語る白玉の未製品、滑石の小剥片を挙げるすることができます。量的にはさほど多くはなかったのですが、周辺に所在する竪穴住居からも床面を中心として白玉の製品が数多く検出されていることから生産の一端がうかがえます。次に、調査区の中央部を南北方向に貫流する幅約5m、深さ約1.5mの溝の中からは、溝の斜面に須恵器の杯身、杯蓋を置き並べた箇所が検出され（巻頭写真）、そこで水に関する何らかの祭りがなされたことがわかりました。

その後、古墳時代後期の終り頃になると、それまでの様相が一変します。竪穴住居をはじめとする集落の存在は調査区内においては認められず、わずかに調査区の中央部をほぼ東西方向に貫流する幅約3.5m、深さ約1.5mの溝1条と土壇墓が1基検出された程度です。しかし、溝の最下層からは、数多くの須恵器、土師器などの日常使用する遺物に混じって、鉄滓、フイゴの羽口、鉄鉱石などの鉄の生産に深く係わる遺物が数多く出土しました。これらの性格は、詳細な科学的な分析を待たなければ分かりませんが、状況から考えて鉄作りに深く関係した集団がここに居住していたことは明白であると思われます。

奈良時代は、掘立柱建物が3棟と土壇が3基検出されました。掘立柱建物は主軸をいずれも東西・南北方向を基調とし、柱穴掘り方に方形規格を部分的に採用しているものでした。また、土壇から出土した須恵器・土師器の在り方には包含層中から検出された円面硯の存在と相俟って役所的な様相が多く見られました。このことから掘立柱建物を中心とするこの遺跡の性格としては、北側約500mの地点からさらに以北に展開すると考えられる備前国府との関連で理解して差し支えないものと考えることができます。

(鳥崎 東)

三室川ダム建設に伴う発掘調査始まる

県営三室川ダムは阿哲郡神郷町に建設中の多目的ダムです。その水没予定地には大成地区の大成山たたら遺跡群と、三室地区の縄文土器散布地があります。昨年度に遺跡範囲の確認調査を行い、その成果に基づく保存協議の結果、発掘調査が必要となった大成山たたら遺跡群について4月から全面調査を実施しています。

主な調査対象は近世たたら吹き製鉄に関する遺構で、高殿と呼ばれる製鉄場跡と、包丁鉄と称する鉄素材として出荷するための大鍛冶場跡がそれぞれ複数箇所想定されています。検出される遺構は高殿内に築かれる製鉄炉の地下に防湿施設として造られた床釣り施設や大鍛冶炉、あるいはこれらから排出される鉄滓捨て場などとなります。

A～H・Kの調査区のうち、A・D・G・H区については調査の終了を迎えつつあります。

A区では、本床と小舟による床釣り施設が検出され高殿の存在が確認されました。炉は南北に想定され、西から南側の谷に向かって鉄滓・炉壁等の堆積がみられます。床釣り施設の構造・規模からみて、高殿たたらでも古い段階のものと思われます。

D区では高殿たたら成立以前の製鉄炉地下構造・床釣り施設各1基とともに複数の大鍛冶炉が検出されました。床釣り施設はA区とは異なり、石組みによる本床・小舟の壁体構造やその規模の大型化等、より後出の要素を示しています。

G・H区周辺には鉄滓の散布が見られたため調査を実施しましたが、G区で6基の堅穴遺構が検出されたものの、製鉄関連の遺構とは断定しがたく、その性格は不明です。H区には遺構は存在しませんでした。

これまでに検出された三つの製鉄炉地下構造には相当の時期差が認められますが、今後も2ヶ所(B・C区)の高殿たたらについて調査をする予定で、それぞれの構造の比較検討が楽しみとなってきています。(氏平昭則)



大成山たたら遺跡群調査区位置図
(縮尺：1/5,000)



A区 高殿跡検出状況

国道179号バイパス建設に伴う発掘調査

九番丁場遺跡

九番丁場遺跡は苦田郡鏡野町布原にあります。この場所は鏡野町の南東端部で、津山市に隣接しています。遺跡の西には、北から南に流れる香々美川があり、遺跡の西方で吉井川と合流しています。遺跡はこの香々美川の東岸に形成された河岸段丘の上に立地しており、川からの比高差は十数mあります。遺跡は津山盆地の西端を広く見渡せる位置にあります。

九番丁場遺跡からは弥生時代から古代にかけての遺構と遺物がありました。竪穴住居は弥生時代のもの4軒、古墳時代のもの5軒の合計9軒ありました。掘立柱建物は10棟検出しました。個々の建物の時代を決めることは難しいものがありますが、弥生時代、古墳時代、古代の時期に属するものと考えられます。特に南端部で検出した建物は中心軸が正確に南北方向を向くもので、時期は奈良時代と考えられます。溝は6条ありました。この中に「コ」字形に巡る溝があります。調査区の関係で東側の一部しか調査していませんが、南北の辺の長さは約20mあります。この方形に区画された部分にはそれを意味づけるような遺構が今回の調査では発見されていません。

古墳時代の竪穴住居は5軒調査しました。いずれも方形の竪穴住居で最も小さいものは一辺約3mあります。最も大きいものは一辺約8.2mあります。後者は全体が調査できていないため一部不明な点がありますが、少なくとも三辺には床面より一段高いベット状の施設があり、長径70-80cmを測る柱穴を4本持つ古墳時代後半の竪穴住居です。普通の竪穴住居が一辺4-5mの大きさであることを考えると注目すべきものと言えます。

弥生時代の竪穴住居は4軒調査しました。隅丸方形と円形のものがあります。中でも注目したいのは特別に大きい竪穴住居があることです。長径11.9m、短径約11.5mと岡山県下で最大級の大きさです。規模も大きいだけにその構造も特異なものが見られます。竪穴住居の壁体から約1.0-1.5mの位置に壁に沿うように14個の柱穴と、中央穴を挟んで6個の柱穴があります。遺物は弥生土器とともに「人形」土製品、ガラス製管玉、碧玉原石（加工した痕跡が見られる）などが出土しています。

この巨大竪穴住居のつくられた時期は弥生時代後期の前半と考えられます。（井上 弘）



「人形」土製品
(縮尺：約4/5)



岡山県下最大の円形竪穴住居

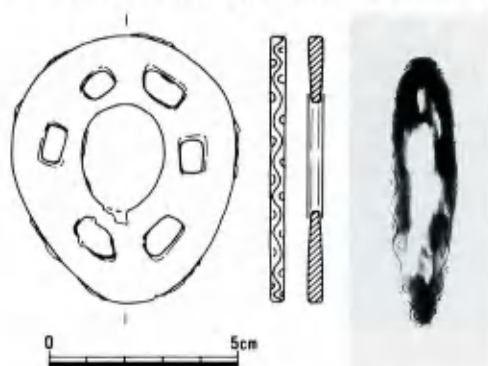
出土品整理速報

古墳出土の大刀に銀象嵌

—真庭郡久世町 奥田古墳—

県北流通センターの建設に伴って発掘調査を実施した、奥田古墳（径約11mの円墳で埋葬施設は横穴式石室）から出土した鐔の保存処理作業を行っていたところ、縁の部分全体に銀象嵌装飾が施されているのを発見しました。

鐔の平面形は剣卵形で、長径7.0cm・短径6.0cm・厚さ0.4cmを測り、六窓の透かしが存在します。その透かしは長方形に近い形ですが、



実測図（左）とX線写真（右）

不揃いで大きさも若干異なっています。銀象嵌の文様は波形と「C」字形からなり、残存状態は極めて良好です。

この奥田古墳出土の文様に似たものを岡山県内の古墳に求めれば、英田郡大原町川戸の川戸2号墳があります。また2条の線の間に「C」字形の文様を並べたものが、岡山市平瀬の平瀬2号墳と岡山市栢谷の西山2号墳から出土しています。さらに津山市瓜生原の柳谷古墳と総社市上林の緑山17号墳からは、柄頭をはじめとする各所に複雑な銀象嵌装飾が存在するものも出土しています。

これらの古墳は、奥田古墳も含めて6世紀後葉から7世紀前葉にかけてのものです。

このように奥田古墳出土の銀象嵌装飾を施した鐔は、上記した5基の古墳の類例とともに、古墳や出土遺物を研究するうえで非常に重要な資料になると思われます。（福田正継）

竪穴住居出土の骨角製品

—岡山市伊福町 上伊福西遺跡—

上伊福西遺跡は、岡山市の中央部を流れる旭川の西岸下流に位置する集落遺跡です。

この遺跡は平成6年度に県立岡山工業高校内で発掘調査を行い、平成8年度から出土品を整理しています。

今回報告する骨角製品は、古墳時代初頭の竪穴住居の床面から出土したものです。1は骨製の管玉で、長さ約30mm、径約19mmのものに径約8mmの紐を通すための孔をあけています。2は鹿角製の刻骨の基部片です。長さ約10cmで刻みは3本しか残っていませんが、他の出土例から本来は25本前後あったと考えられます。炬のそばから出土したためか焼けていますが、非常に丁寧に加工されている状況が見られます。

特に刻骨は県内では5例目の出土ですが、このうち本例を含めた4例が旭川の西岸下流で出

土しています。刻骨は、その用途に楽器説や呪術の道具説などがあり、まだはっきりとした用途はわかっていません。

これから整理が進んでいく中で用途についても考えていきたいと思っています。（杉山一雄）



骨角製品（縮尺：1/2）

普及啓発事業から

I. 現地説明会

当センターでは、毎年発掘現場の現地説明会を開催しています。昨年度は3つの現場で開催し、約550人の方に参加していただきました。

発掘調査の終了した遺跡は、その大半が記録保存の形で残るのみで、遺跡自体は消滅してしまいます。出土品については実物を後世に引き



久世町 県北流通センター(平成8年3月9日)

継いで行けますが、建物や住居の跡といった遺構は写真や図面といった記録でしか残せません。そのため、消滅する以前の遺跡の状況をできるかぎり多くの方の記憶に留めていただき、記録だけでなく皆さんの口からも後世に伝えていただきたいと考えています。

今年度も14遺跡で発掘調査を実施し、できるかぎり現地説明会の開催を考えていますので、多くの方の参加をお待ちしています。(杉山一雄)



津山市 県立津山高等学校(平成7年12月10日)

II. 平成8年度『夏休み少年少女考古教室』

当センターでは8月8日と9日の両日にわたって小学校6年生を対象に「考古教室」を開催しました。これは、郷土の歴史を身近に親しみ、文化財への理解を深めることを目的として行っているものです。

今年も昨年度に引き続き県内の小学校に参加者を募集したところ66名の応募がありました。当日は10名が欠席でしたが、参加者はこれまでのなかで最も多い56名となりました。

1日目は、午前中にセンター施設の見学と考古学入門講座として「考古学ってどんなことをするの」ということを中心に学習しました。午後は室内における体験学習として、土器を接合したり、粘土を使って土器についた文様を真似てみたり、拓本をとったりしました。特に、実際に発掘調査で出土した土器の接合作業には夢中になる児童が多いようでした。

2日目は、午前中は野外で昔の人々の生活再

参加小学校一覧

岡山市	古都小学校3名、浮田小学校1名、吉備小学校5名、三門小学校2名、庄内小学校1名、福田小学校1名、加茂小学校1名、御南小学校3名、平津小学校4名、大野小学校1名、芳泉小学校2名、妹尾小学校2名、陵南小学校4名、ノートルダム清心女子大学付属小学校4名						
倉敷市	郷内小学校2名、琴浦小学校2名、中庄小学校1名、庄小学校1名、帯江小学校2名						
玉野市	築港小学校1名	寄島町	寄島小学校1名	建部町	建部小学校1名	邑久町	今城小学校1名
里庄町	里庄東小学校4名	御津町	御津南小学校2名、五城小学校2名	山手村	山手小学校2名		

現として自分たちでおこした火を使って土器による炊飯や塩作りを行いました。また杵と臼で脱穀をしたり、石斧で実際に木を切ってみたりしました。午後は遺跡見学として横穴式石室のある石舟古墳まで歩いて行きました。

両日とも大変暑い中でしたが、児童たちは元気に学習し、大変興味深く取り組んでいたようでした。このような体験を通して、今後児童たちが自分たちの郷土の歴史や埋蔵文化財への強い関心をもっていただければと考えています。

(大橋雅也)

日程表

第1日	8月8日(木)	第2日	8月9日(金)
10:00	開講式	10:00	体験学習②
10:20	センター施設見学		・火おこし
11:10	考古学入門講座		・土器を使った塩作り
			・土器を使った煮炊き
12:00	昼食	12:00	昼食
13:00	体験学習①	13:00	古墳の見学
	・土器の復元	13:30	・石舟古墳の見学
	・土器の文様復元		
	・拓本		
15:55	明日の子定(説明)	15:20	閉講式
16:00	解散	15:30	解散



開講式



考古学入門講座



土器の復元



海水を煮つめて塩作り



火をおこす



杵と臼を使って脱穀をする

岡山県古代吉備文化財センターの組織と職員(平成8年度)

<組織>



<職員>

所長	河本 清
次長	高塚 恵明
文化財保護参事	葛原 克人 (文化課本務)
参事	正岡 隆夫
総務課	
課長	九尾 洋幸
総務係	
課長補佐(係長)	井戸 丈二
総務主幹	守安 邦彦
主査	木山 伸一
主事	那須 一士、柚木 寿志、西山 泰晴、浅野 晋次
主事	金出地 敬一
調査第一課	
課長	高畑 知功
第一係	
課長補佐(係長)	江見 正己 (県立博物館兼務)
文化財保護主査	平井 泰男

文化財保護主任	大橋 雅也	(兵庫県派遣)
文化財保護主事	弘田 和司	(文化課本務)
	柴田 英樹	渡邊(久保) 惠里子
	金田 善敬	杉山 一雄
主事		
第二係		
課長補佐(係長)	中野 雅美	
文化財保護主幹	福田 正継	
文化財保護主査	二宮 治夫	
文化財保護主任	小延 祥夫	
文化財保護主事	山本 茂樹	
主事	清水 竜太	
調査第二課		
課長	伊藤 晃	
第一係		
課長補佐(係長)	浅倉 秀昭	
文化財保護主査	木原 義明	光永 真一
文化財保護主任	田井 莊之助	
文化財保護主事	澤山 季之	氏平 昭則
主事	物部 啓介	真壁 雅樹
主事	鮎原 孝人	
第二係		
課長補佐(係長)	山道 康平	
文化財保護主幹	下澤 公明	岡本 寛久
文化財保護主査	中務 和彦	三宅 勝己
文化財保護主任	伊東 孝人	
文化財保護主事	速水 孝人	
調査第三課		
課長	柳瀬 昭彦	
第一係		
課長補佐(係長)	松本 和男	
文化財保護主査	易 伯通	島崎 東
文化財保護主任	山本 道夫	
文化財保護主事	宇垣 匡毅	岡田 達矢
主事	大村 俊幸	亀山 行雄
主事	井上 吉和	砂 泰将
主事	樋口 雅夫	佐藤 寛介
第二係		
課長補佐(係長)	井上 弘	
文化財保護主事	難波 拓史	根本 智宏
主事	岡本 泰典	谷口 広幸
主事	小林 利晴	日下 隆春
第三係		
課長補佐(係長)	岡田 博	
文化財保護主査	内藤 善史	
文化財保護主任	高田 恭一郎	
主事	尾上 元規	前田 能成
主事	小嶋 善邦	



編集・発行

岡山県古代吉備文化財センター

所在地 〒701-01
岡山市西花尻1325-3
電話 (086)293-3211

●交通案内

- ・ J R山陽本線庭瀬駅下車タクシー10分
- ・ J R吉備線吉備津駅下車徒歩25分
- ・ J R岡山駅下車岡電バス岡山駅前より神道山行終点下車徒歩5分